

<朧月夜>

菜の花畠に入日薄れ

見わたす山の端
霞ふかし

春風そよふく
空を見れば

夕月かかりて
におい淡し

里わの火影も
森の色も

田中の小路を
たどる人も

蛙のなくねも
かねの音も

さながら霞める
朧月夜